

ロシア・メドベージェフ首相の国後訪問に抗議する

千島列島と歯舞諸島・色丹島は日本の歴史的領土

日本共産党

領土問題の公正解決に反する訪問やめよ

ロシアのメドベージェフ大統領は三日、一昨年十一月に続き国後島を訪問しました。領土の実効支配を誇示する目的があるとみられています。

日本共産党は、最初の訪問の際、この訪問は千島の領有を固定化しようとする意思表示であり、領土問題の公正な解決に反するとの志位和夫委員長の談話を発表し、抗議しました。今回の訪問も、容認できるものではありません。

六月のG20の際に、野田首相とプーチン大統領が会談し、領土問題に関する交渉を再活性化することで一致し、「静かな環境の下で実質的な議論を進めていく」としていましたが、今回の訪問はこの会談とも矛盾するものです。



志位和夫委員長と会見

歴史的経過を見ると

千島列島は、北端の占守（しゅむしゅ）から南端の国後までの諸島をさします。

日口間の最初の条約は「日魯通好条約」（1855年）で、国境を択捉島と得撫（うるつぷ）島との間におき、樺太を両国民の「雑居地」にするという内容でした。

その後「樺太・千島交換条約」（1875年）で日本は樺太への権利を放棄する代わりに、得撫以北の北千島を日本に譲渡し、千島全体が日本に属することで合意したのです。

ところが、第2次世界大戦終結時にスターリンが、ヤルタ会談（1945年）でソ連の対日参戦の条件として千島列島の「引き渡し」を要求し、米英もそれを認めたのです。この秘密の取り決めを根拠に、日本の歴史的領土である千島列島を併合したうえ、旧ソ連は、北海道の一部である歯舞群島と色丹島まで占領したのです。



戦後処理の不正を正す、道理ある外交を

戦後67年もたつて、まったく解決のめどすらたない理由は、歴代の政権が、戦後処理の不正をただせという主張を、国際社会にもロシア（ソ連）にたいしても、ただの一度もしてこなかったからです。

1951年のサンフランシスコ講和条約で、千島列島にたいする「すべての権利、権原および請求権を放棄」したうえ、国際的に通用しない議論を領土交渉にもちこんだからです。

結局、これまでの領土交渉は具体的な成果があがらないばかりか、日本側の一方的な譲歩だけが繰り返されるといふ事態となってきました。不正なヤルタ協定やサンフランシスコ条約にとらわれず、歴史的な事実をもとにした道理ある外交を、日本共産党は求めます。

※日本共産党北海道委員会の見解を
紹介します。ご意見をお寄せくだ
さい。日本共産党北海道委員会
Tel. 011-746-1151

2012年7月号外
発行所/ほっかい新報社
〒060-0806 札幌市北区北6条西7丁目
電話(011)726-4858
(昭和40年8月10日第三種郵便物許可)

